

# 施設だより愛の園

創立20周年記念号

第14号  
2013/7

## 愛の園創立二〇周年を迎えて

愛の園 統括園長 信川恒夫

愛の園が開設二〇周年を迎えることが出来ました。これも皆様のお祈りとご支援の賜物と感謝しております。

さて、愛の園は故齋藤信男理事長と溢子園長の祈りと行動



愛の園の職員（多くの職員に支えられている愛の園です）

によって建てられ、平成五年五月に開設されました。そのスタートはその時から遡ること一〇年以上前になります。それは、齋藤夫妻に聖書の御言葉が与えられたことに始まります。

「あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起こさせ、かつ実現に至らせるのは神であって、それは神のよしとされる場所だからです。（ピリピ書三：一二）」

故齋藤信男は牧師として、多くの教会の抱えている高齢者問題を見聞きし、また民生委員の仕事を通じて、地域の高齢者との関わりを持つ中で、「人生の最期の時を清潔なぬくもりのある温かい介護を受けられる施設を立ち上げる。」という使命を与えられました。

私は当時、公務員として忙しくしておりましたが、社会福祉法人立ち上げの当初から、二人からいろいろの相談を受けておりました。創成期の苦労は創立者しか分からないものですが、その苦労を横で見ることが出来たのも、不思議な神様の導きだと思っております。愛の園の働きが益々大切になっていくこのような時に、齋藤溢子からバトンを渡され、この二〇周年を迎えた今、新たな気持ちでスタートを切っていきたいと思っております。

私は二人の祈りによって建てられた愛の園が、神様に祝福され、今後も継続・発展するために、次の聖書の御言葉を我が足の燈火にしたいと思っております。

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これがキリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。（ピリピ書五：一六〜一八）」

これからも愛の園の働きのためにお祈りください。よろしくお願いいたします。

- ・昭和五三年頃…キリストの愛を土台とした老人ホーム設立のビジョンが与えられる。(ピリピ書二・三)兵庫県高年福祉課、神戸市民生局高年齢福祉課へ設立の趣旨を伝えると並行して、用地を探す。(神戸市西区、北区、三田市他)
- ・昭和六三年…神戸市内で特別養護老人ホーム設立を決め、神戸市に設立の趣意書を提出する。
- ・平成二年四月一〇日…神戸市須磨区妙法寺に用地を取得する。
- ・平成三年七月…一粒社ヴォーリス建築事務所へ設計を依頼する。
- ・平成四年三月…工事請負業者が、藤木工務店・馬田工務店JVに決定する。
- ・平成四年五月八日…六三名出席のもと聖書を礎石として、定礎式が行われる。
- ・平成五年五月一日…特別養護老人ホーム「愛の園」を開設する。
- ・平成七年一月一七日…阪神淡路大震災発生  
地震直後から愛の園は高齢者を緊急シヨートステイの制度により三七名を収容する。  
神戸市民福祉振興協会に代わりヘルパー派遣する。  
須磨区中島公園、東須磨公園内の
- ・高齢者、障害者の被災者のための仮設住宅の常駐支援員を四名派遣し、安否確認、生活相談、生活支援を行う。
- ・平成八年七月…ホームヘルパー事業を開設する。
- ・平成一〇年九月…愛の園デイサービスE型(定員一〇名)を開設する。
- ・平成一一年一〇月…在宅介護支援センター「愛の園」(神戸市長田区長田5丁目)を開設する。生きがい対応型デイサービスを開始する。
- ・平成二二年四月…居宅介護相談室(愛の園)を開設する。
- ・平成一三年四月…神戸市立片山デイサービスセンター(定員二〇名)の運営を受託する。
- ・平成一三年一〇月…定員を特養五〇名から五六名、シヨートステイ二〇名から一四名に変更する。
- ・平成一四年二月…天皇陛下より「御下賜金」を賜る。
- ・平成二〇年四月…ケアハウス松寿園(定員五〇名:神戸市長田区丸山)を指定管理者制度により運営を開始する。名谷愛の園あんしんすこやかセンター開設、それと併せて居宅介護相談室を名谷愛の園居宅介護支援センターに改組する。
- ・平成二二年一二月…名谷愛の園ホームヘルプステーションを開設する。



開設当初の入居者と職員



竣工式に歌を歌ってくれた「ゆりか保育園」の子供たち



竣工式に多くの方々が集まってくれました(平成五年五月一日)

工事の様子 (㊦法面工事 ㊦地階部分)



平成二年五月一九日付クリスチャン新聞で齋藤信男、益子夫妻の思いが大きく紹介されました



荒天の中、六三名の方々が出席し、定礎式が行われました(平成四年五月八日)



震災時の緊急シヨート利用者の言葉

「避難所の冷たい廊下に、体の不自由な主人を寝かせながら、主人と二人で一時は死を考えたりしました。さすがに思いで、愛の園に電話して、「どうぞいらして下さい。」と言われた時、どんなに嬉しかったかわかりません。一生忘れません。」

植松恵美子



愛の園に就職して、二〇年が経ちました。齋藤益子先生と峯真理子先生が私たちの教会に来られ、愛の園で働く人を募集していますと言われました。その頃働いていた会社の社員のお母様が、介護士の仕事をしていると聞いていたので、少し興味を覚えていた事もあり、応募しました。私に出来るだろうかと自信なげに説明を聞いてみると、「子育ての経験者であれば大丈夫ですよ」の言葉に背中を押され、就職する事が出来ました。また工事中の部屋で、介護福祉専門学校卒の若者達の中に混じって研修を受けました。オープンの日を迎え、当初私は事務所で事務の手伝いをしていました。そしてデイサービスのオープンを機に、そこで働く事になりました。何も解らない中、良き仲間と出会う事が出来ました。時にはぶつかり、時には喜び合いの手さぐりのスタートでしたが、日々ワクワクして仕事をさせて頂いた事は忘れません。私たちは人生の最終ページに携わる仕事をさせて頂いておりませんが、毎日が人生の勉強と言っても過言でないと思います。私も後二年すれば介護保険者証を頂く事になります。愛の園で働いた二〇年を私は神様が与えて下さった人生の贈り物と思います。職員として働かせて頂き多くを学ばせて頂いた事に誇りに思います。そして宝物です。

福原正義



私が愛の園に勤めることになったのは、二〇年前齋藤益子園長の面接があり、私にはまったく採用の質問はされずに、私が既にスタッフであるかのようになり、愛の園を立ち上げていく夢を話されたことがきっかけです。その時、私は作文を書くよう求められ、「自分に自信が持てるようになりたい。」そのような内容を文章にしました。結果は特養の所属となり、齋藤園長から「優しく接するように。あなたは男の子なのだから、とにかく仕事を続けなさい。」と声をかけていただきました。それから、日々お年寄りや、他の職員と仕事を通じて悩みながら、相談しながら現在に至っています。私は多くに学んでいきたいと思っています。

寒川憲治



振り返ればあつという間の二〇年、就職の面接をした日の事は今でも覚えています。当時、建物は建設中の為、会場は同法人の光の子保育園で峯先生、齋藤益子園長に面接をして頂きました。その時に「私は豊岡出身ですので、三年で実家に帰ろうと思っと思っています。」と言いました。よく採用して頂いたと思います。入社後特養に配属され、若い男性職員は二人でご利用者様も女性が多く、孫の様に可愛がって頂きました。自分自身も答えなくてはいけないと思い、話を聞き、忙しくても仕事が終わってからは、ゆっくり話をしたり、一泊旅行に行ったりと楽しかったです。その後は、シヨートステイ、デイサービスの相談員をさせて頂き、色々なご利用者様、ご家族様と接する機会が多くなり、沢山勉強をさせて頂きました。何かあるとお手紙を頂くこともあり、今回も「この度の異動のお知らせを受け取り驚きとともに落胆していましたが」と書いてあり涙が出そうになりました。皆様に支えられていたのだなと思います。本当に感謝です。そして、今年二〇周年の節目の年に「介護しよつぷ」に転属になりました。今迄の現場での経験を生かし、ご利用者様が少しでも在宅生活を続けて頂けるよう支援できればと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

前田勝信



早いもので、入職の日から二〇年もの歳月が流れている事をあらためて実感致しました。自分たちは、一期生として、「愛の園」の建物が建設中から今日まで共に歩んでまいりました。当時、まだ不慣れた職員が、少人数ずつの入居者の皆様を受け入れさせて頂いたのですが、それでも、あたふたとしていたのが昨日の事に思い起こされます。この間、多くの事がありました。一つには、阪神淡路大震災。大勢の方が被災し、当施設も避難場所になりました。大勢がホールにまで溢れ、さながら野戦病院の様でした。職員も被災しましたが、その人手不足も他県からの多くの応援職員が支えてくださいました。水・食料、医薬品の確保、衛生の保持などで走り回る職員に、入居・避難の皆さんが優しく励ましのお言葉をかけて下さったのを今でも鮮明に思い出します。時代の荒波を越えてくれた皆さんの「強さ」を感じました。懸命に生きて、年齢を重ねてくれた諸先輩が、今、如何にお支え出来るか。聖書の御言葉に「あなたも行って同じようにいなさい。」とあります。傍観者にならず、実際に手を差し伸べることが出来る者となり得るか。「愛の園」はその設立から、多くの方の祈りとご支援にて成り立っております。それはこれからも変わらないと思います。その中に職員として加えて頂きました事に感謝し、またこれからも励んでゆきたいと思っています。